

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 07

学校名・団体名	銚田市立銚田南中学校
HPアドレス	http://www.city.hokota.ed.jp/hokota-minami/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「分かる」「書ける」「発表できる」ためのICT
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 視覚に訴えかけた授業実践をすることで、主体的に学ぼうとする生徒を育成すること。○ デジタルコンテンツや一人1枚のホワイトボードを活用することで、「学び合い」を活性化させ、生徒の思考力、表現力、コミュニケーション能力を高めること。○ ICTの効果的な活用により銚田市授業スタイルの授業を活性化させることで、生徒一人一人に学級での帰属意識をもたせること。	

<活動・研究報告> (時期、内容、成果や子どもたちへの効果などを記入。A4用紙1~2枚でおまとめください。)

1 時期 平成29年4月~平成30年3月

2 活動対象

- (1) 対象者 全学年(441名)
- (2) 教科 全教科, 全領域

3 活動内容

本研究のねらいは銚田市授業スタイルを活用した授業の質の向上である。銚田市授業スタイルとは適切な言語活動を取り入れたアクティブ・ラーニングである。そこでICT機器の効果的な活用により生徒の思考力の促進と表現力の向上を図ろうとした。

(1) 「分かる」ために

図1は3学年学級活動において本時の課題や生徒のアンケート集計結果をテレビに映し出し、自分の思いをプリントに表現させている場面である。キャスター付きの大型テレビを活用することにより、情報の共有化を図った。このようなICT機器の活用により本時の課題やねらいを明確にすることで学習意欲の向上を図った。また、教室左上にある固定式のテレビも併用した。このようにテレビを複数にし、視覚に訴えかけることで集中力が継続しやすい授業になるようにした。

五教科ではデジタル教科書を活用し、教科書の拡大表示、マーキングも行った。指示伝達内容の共有化のみならず、強調したい場面やグラフに直線や曲線を入れ、聴覚と視覚の両面から伝えることで生徒の理解力向上を図った。

基礎基本の定着を図るためにフラッシュ型教材を活用した。プレゼンテーションソフトで作成した一問一答をテレビに映し出し、声に出させたり、ホワイトボードに記入させたりすることで興味関心を高めさせながら繰り返しの学習を行った。

(2) 「書ける」ために

ノートはクラス全体に見せたり、級友とシェアしながら加筆修正したりすることが困難である。そこで、ホワイトボードの効果的な活用を図った。

図2は2学年学級活動で生徒一人一人にホワイトボードを持たせ、自分の考えを記入させている場面である。ノートとは違い、大きく書きやすく、見やすいホワイトボードに自分の考えを表現するだけでなく、話し合いをしながら記入させることで生徒の思考力促進を図った。また、このサイズだと立ってホワイトボードを見せるだけで級友全体に自分の考えを伝えることができるので、途中経過を全体に伝える場の設定も行った。

図3は1学年数学科である。ノートに記載した自分の考えを発表した後、グループの考えをまとめている場面である。すなわち、銚田市授業スタイルにおける学び合いの場面である。グループの記録者がホワイトボードにグループの統一見解をまとめることで学習内容の共通理解や帰属意識を高めさせることができた。

(3) 「発表できる」ために

図4は2学年総合的な学習の時間の発表場面である。職場体験学習で学んだことをプレゼンテーションソフトでデジタルコンテンツを作成させ、グループ員で役割分担を行い、発表させた。生徒達には「自分たちの体験結果」という自分ではよく分かっていることでも、全く知らない人によく分かるように説明するにはどのようなことをすれば良いのかを考えさせた。このような活動を繰り返すことで生徒達は豊かな表現で発表をするができた。また、グループでの協働学習をすることで帰属意識を高めることができた。

図5は2学年理科である。各グループの考察を小型ホワイトボードに記入後、大型ホワイトボードに貼らせ、各グループの発表者が自グループの考察を発表している場面である。このように発表までの過程を統一して行うことで教員や生徒にとって発表しやすい授業にすることができた。

3 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

今まで実践してきた銚田市授業スタイルにICT機器を取り入れることで「分かる」授業ができた。また、一人1枚のホワイトボードを併用することで「書ける」活動や「発表できる」表現力が高まった。これら取組により生徒一人一人にねらいとする力の向上が見られた。

次に具体的な成果を記す。

- ・授業での協働学習がしやすくなり、生徒一人一人の帰属意識を高めることができた。
- ・生徒主体の授業実践が円滑になり、学力向上を図ることができた。
- ・グループの話し合い活動や全体での発表がわかりやすくなり、表現力を高めることができた。
- ・小型ホワイトボードの活用により自他の考えの比較・検討を通して、思考力向上を図ることができた。
- ・コミュニケーション活動を頻繁に行うことで、自己理解や他者理解をする場を多く設定することができた。
- ・ICT機器の研修や教育実践をすることで、教員一人一人の授業力の向上を図ることができた。

(2) 研究の課題

- ・デジタル教科書の活用により思考力を高める効果があった。さらに効果的な活用法の研究を進めたい。
- ・ノート型PCでも持ち運びに難があった。持ち運びに便利なタブレットの活用を進めて行く必要がある。



図1 3学年 学級活動



図2 2学年 学級活動



図3 1学年 数学科



図4 2学年 総合的な学習の時間



図5 2学年 理科